ＪＩＣＡ国際緊急援助隊医療チーム臨床検査部門の昨年度の成果と今後の課題

～国際緊急援助隊医療チーム課題検討班診療１班課題検討委員に参加して～

◎佐藤　千歳

現在、日本における海外の災害時での医療支援としてJICA 国際緊急援助隊（JDR）を JICA が中心となって組織し、演者はこの JDR の医療チーム（JMTDR）に登録している。JMTDR　は 1979 年から始まり、近年ではこれまでの外来診療のみから外科手術、入院やリハビリ機能を追加したチーム編成へと拡大している（EMT Type2）。それに伴い、医療チーム全体では国際緊急援助隊仕様の電子カルテ（JDR MOS）の導入、WHO 国際標準日報である MDS の編集、EMT 再認証に向けた The　Blue　Book への対応、臨床検査部門も POCT 対応機器を主体とした検査機器の整備、国際標準に合わせた災害時の輸血の実施など、世界情勢に合わせた JMTDR が毎年進化している。このような急速な進化に対して、診療、病棟、物品管理、公衆衛生などの各部門で課題検討チームの委員が毎年公募によって募集・編成され、各年度での課題を１年かけて議論し、最終的に JMTDR の今後の方向性を決めていく。演者は、今年度国際緊急援助隊医療チーム課題検討班診療１班の検討委員に入り、JMTDR の外来診療内の、特に臨床検査部門について現在検討を行った。昨年度の臨床検査部門の主な課題は、海外の災害医療下における水質検査の再整備や供血および輸血検査の更なる構築化であった。具体的に水質検査では検査方法の平準化を図るため、比色板による残留塩素系やパックテストを導入した。供血および輸血検査では供血の検査や輸血の手順書の検証等を行った。

水質検査は臨床ではみられない検査項目ではあるが、公衆衛生上でとても重要な検査であり、臨床検査技師が精度管理を含めその検査を担うことが必要であると考えている。さらに、開発途上国を含めた海外、災害下かつ現場での供血および輸血行為という難解な課題であるが、派遣時におけるスムースな輸血検査を行えるよう、今後も問題を１つずつクリアすることが必要である。本学会では現在のＪＩＣＡ国際緊急援助隊医療チーム臨床検査部門の内容を報告かつ情報共有し、今後の検査部門の方向性を問うことも目的としている。

岡崎市保健所保健衛生課　0564-23-6068